

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3146510号
(U3146510)

(45) 発行日 平成20年11月20日 (2008.11.20)

(24) 登録日 平成20年10月29日 (2008.10.29)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 85/72 (2006.01)

F 1

B 6 5 D 85/72

F

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6313 (U2008-6313)
 (22) 出願日 平成20年9月8日 (2008.9.8)
 (31) 優先権主張番号 096133698
 (32) 優先日 平成19年9月10日 (2007.9.10)
 (33) 優先権主張国 台湾 (TW)

(73) 実用新案権者 508270510
 ▲頼▼ 騰順
 台湾台北市松江路23号5樓之1
 (73) 実用新案権者 508270521
 ▲黄▼ 順偉
 台湾台北市松江路23号5樓之1
 (74) 代理人 100071054
 弁理士 木村 高久
 (74) 代理人 100149087
 弁理士 中川 康子
 (72) 考案者 ▲頼▼ 騰順
 台湾 台北市 松江路23号5樓之1

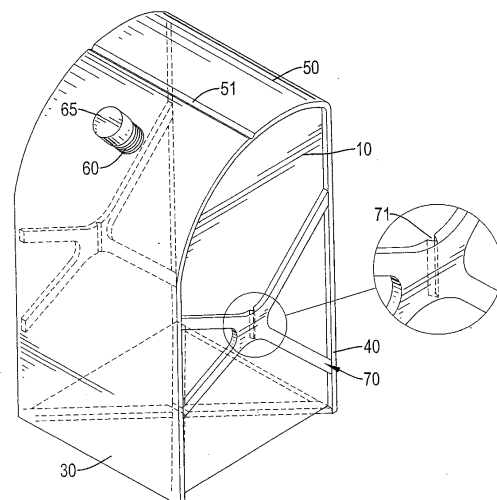
(54) 【考案の名称】 折畳み式食品用エコ容器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】簡単に折畳んで廃棄することができる折畳み式食品用エコ容器を提供する。

【解決手段】両側に設けられる2つの側部薄片状部材10と、下部に設けられる下部薄片状部材と、前部に設けられる前部厚片状部材30、後部に設けられる後部厚片状部材40と、上部に設けられる上部厚片状部材50とから構成され、上部厚片状部材50に開口を備える注ぎ口60が設けられると共に、下部薄片状部材に下部補強部材が設けられ、該下部補強部材には、下部補強部材を折曲するための、左右方向へ伸びる下部切欠き51が形成され、上部厚片状部材50には、上部厚片状部材50を折曲するための、左右方向へ伸びる上部切欠き51が形成され、該下部切欠き及び上部切欠き51は夫々、該下部補強部材及び上部厚片状部材50の上面あるいは底面の何れか一方に形成されることを特徴とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

両側に設けられる 2 つの側部薄片状部材と、下部に設けられる下部薄片状部材と、前部に設けられる前部厚片状部材、後部に設けられる後部厚片状部材と、上部に設けられる上部厚片状部材とから構成され、

前記上部厚片状部材に開口を有する注ぎ口が設けられると共に、前記下部薄片状部材に下部補強部材が設けられ、該下部補強部材には、下部補強部材を折曲するための、左右方向へ伸びる下部切欠きが形成され、該上部厚片状部材には、該上部厚片状部材を折曲するための、左右方向へ伸びる上部切欠きが形成され、該下部切欠き及び上部切欠きは夫々、該下部補強部材及び上部厚片状部材の上面あるいは底面の何れか一方に形成されることを特徴とする折畳み式食品用エコ容器。

10

【請求項 2】

前記下部切欠きが下部補強部材の上面に位置すると共に、前記上部切欠きが上部厚片状部材の上面に位置することを特徴とする請求項 1 に記載の折畳みエコ包装容器。

【請求項 3】

前記下部補強部材が X 字形であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の折畳み式食品用エコ容器。

【請求項 4】

前記 2 つの側部薄片状部材に夫々 1 つ側部補強部材が設けられ、該側部補強部材に側部補強部材を折曲するための、上下方向へ伸びる側部切欠きが形成されることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の折畳み式食品用エコ容器。

20

【請求項 5】

前記 2 つの側部薄片状部材に夫々 1 つ側部補強部材が設けられ、該側部補強部材に側部補強部材を折曲するための、上下方向へ伸びる側部切欠きが形成されることを特徴とする請求項 3 に記載の折畳み式食品用エコ容器。

【請求項 6】

前記上部厚片状部材は円弧状を呈し、前記注ぎ口が上部厚片状部材における前部厚片状部材側の近傍に設けられ、該注ぎ口は、上部厚片状部材に設置される下段と、前記開口が形成される上段とを有し、該注ぎ口の下段に伸縮可能な蛇腹部が設けられ、該上段にねじ山部と、該ねじ山部に螺合されるキャップとが設けられることを特徴とする請求項 4 に記載の折畳み式食品用エコ容器。

30

【請求項 7】

前記上部厚片状部材は円弧状を呈し、前記注ぎ口が上部厚片状部材における前部厚片状部材側の近傍に設けられ、該注ぎ口は、上部厚片状部材に設置される下段と、前記開口が形成される上段とを有し、該注ぎ口の下段に伸縮可能な蛇腹部が設けられ、該上段にねじ山部と、該ねじ山部に螺合されるキャップとが設けられることを特徴とする請求項 5 に記載の折畳み式食品用エコ容器。

【請求項 8】

前記側部補強部材が X 字形であることを特徴とする請求項 7 に記載の折畳み式エコ包装容器。

40

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、特に簡単に折り畳んで廃棄することができる折畳み式食品用エコ容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

食品用容器は、従来より飲み物（例えばパック牛乳、お茶、ジュース）用包装容器として広く用いられてきたが、大量の廃棄物を生み出すだけでなく、少なくとも以下のような問題があった。

50

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

1. 前記従来の食品用容器は通常、アルミ箔と、複数のパルプ層と、ポリエチレン膜とからなる。しかし、前記従来の食品用容器は、紙バックやプラスチック容器のように容易に分別できるものではないことから、紙廃棄物、プラスチック廃棄物及びアルミ廃棄物の何れにも属していないので、そのため、廃棄する時に、分別することができなかった。

【0004】

2. 前記従来の食品用容器は通常、長方体、または上部が屋根型を呈する略長方体に形成されるものが殆どであり、回収時には、体積を小さくするために、容器を潰さなければならなかった。しかしながら、長方体に形成された従来の食品用容器を潰す場合、上部分を引き剥がさなければならない。一方、上部が屋根型を呈する略長方体の容器を潰す場合には、まず両側及び底面を内側へ押し込まなくてはならないが、従来の食品用容器は、一定の厚さと硬さを有する複合材料からなるので、それを引き裂いたり潰したりするのはかなり大変な作業であった。故に、前記従来の容器を廃棄する時には、容器を潰さないまま廃棄する人が多かった。

【0005】

そこで、案出されたのが本考案であって、単一の材料からなり、簡単に折畳むことができる折畳み式食品用エコ容器を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本願の請求項1の考案は、両側に設けられる2つの側部薄片状部材と、下部に設けられる下部薄片状部材と、前部に設けられる前部厚片状部材、後部に設けられる後部厚片状部材と、上部に設けられる上部厚片状部材とから構成され、前記上部厚片状部材に開口を有する注ぎ口が設けられると共に、前記下部薄片状部材に下部補強部材が設けられ、該下部補強部材には、下部補強部材を折曲するための、左右方向へ伸びる下部切欠きが形成され、該上部厚片状部材には、該上部厚片状部材を折曲するための、左右方向へ伸びる上部切欠きが形成され、該下部切欠き及び上部切欠きは夫々、該下部補強部材及び上部厚片状部材の上面あるいは底面の何れか一方に形成されることを特徴とする折畳み式食品用エコ容器、を提供する。

【0007】

本願の請求項2の考案は、前記下部切欠きが下部補強部材の上面に位置すると共に、前記上部切欠きが上部厚片状部材の上面に位置することを特徴とする請求項1に記載の折畳みエコ包装容器、を提供する。

【0008】

本願の請求項3の考案は、前記下部補強部材がX字形であることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の折畳み式食品用エコ容器、を提供する。

【0009】

本願の請求項4の考案は、前記2つの側部薄片状部材に夫々1つ側部補強部材が設けられ、該側部補強部材に側部補強部材を折曲するための、上下方向へ伸びる側部切欠きが形成されることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の折畳み式食品用エコ容器、を提供する。

【0010】

本願の請求項5の考案は、前記2つの側部薄片状部材に夫々1つ側部補強部材が設けられ、該側部補強部材に側部補強部材を折曲するための、上下方向へ伸びる側部切欠きが形成されることを特徴とする請求項3に記載の折畳み式食品用エコ容器、を提供する。

【0011】

本願の請求項6の考案は、前記上部厚片状部材は円弧状を呈し、前記注ぎ口が上部厚片状部材における前部厚片状部材側の近傍に設けられ、該注ぎ口は、上部厚片状部材に設置される下段と、前記開口が形成される上段とを有し、該注ぎ口の下段に伸縮可能な蛇腹部

10

20

30

40

50

が設けられ、該上段にねじ山部と、該ねじ山部に螺合されるキャップとが設けられることを特徴とする請求項 4 に記載の折畳み式食品用エコ容器、を提供する。

【0012】

本願の請求項 7 の考案は、前記上部厚片状部材は円弧状を呈し、前記注ぎ口が上部厚片状部材における前部厚片状部材側の近傍に設けられ、該注ぎ口は、上部厚片状部材に設置される下段と、前記開口が形成される上段とを有し、該注ぎ口の下段に伸縮可能な蛇腹部が設けられ、該上段にねじ山部と、該ねじ山部に螺合されるキャップとが設けられることを特徴とする請求項 5 に記載の折畳み式食品用エコ容器、を提供する。

【0013】

本願の請求項 8 の考案は、前記側部補強部材が X 字形であることを特徴とする請求項 7 に記載の折畳み式エコ包装容器、を提供する。

10

【考案の効果】

【0014】

本考案は上記の課題を解決するものであり、上部厚片状部材及び下部薄片状部材に設けられた下部補強部材に夫々、該上部厚片状部材及び下部補強部材を折曲するための、上部切欠き及び下部切欠きが設けられていることから、下部補強部材を上方へ山折りし、該前部厚片状部材及び後部厚片状部材が互いに接近するように押し潰せば、容器を速やかに且つ容易に折畳むことができる。

【0015】

また、本考案はプラスチックの単一材料からなるものであり、即ちプラスチック廃棄物として分別回収することができるので、三種類の材料による複合材料からなる従来の容器のような分別し難いといった問題はない。

20

【0016】

また、前記技術手段によれば、前記側部薄片状部材が側部補強部材を支持しているので、大容量の容器としても使用可能である。

【0017】

更に、前記注ぎ口の下段に蛇腹部が設けられることから、飲み物を該注ぎ口の開口部まで充填することができ、飲み物を飲用する時には、予め該蛇腹部を引き伸ばせば飲み物を注ぎ易くなる。その上、この設計によれば、なるべく大量の飲み物が容器に充填される。即ち、同じ容積を有する従来の容器と比べて、より多くの飲み物を充填できる。

30

【考案を実施するための最良の形態】

【0018】

以下、添付図面を参照して本考案の好適な実施の形態を詳細に説明する。尚、下記実施例は、本考案の好適な実施の形態を示したものにすぎず、本考案の技術的範囲は、下記実施例そのものに何ら限定されるものではない。

【0019】

図 1 は本考案に係る折畳み式食品用エコ容器の斜視透視図であり、図 2 は本考案に係る折畳み式食品用エコ容器の他の斜視透視図であり、図 3 は本考案に係る折畳み式食品用エコ容器における注ぎ口の部分拡大側面断面図であり、図 4 は本考案に係る折畳み式食品用エコ容器を折畳んだ状態を示す斜視図であり、図 5 は本考案に係る折畳み式食品用エコ容器の他の実施例の斜視透視図であり、図 6 は本考案に係る折畳み式食品用エコ容器の更に他の実施例の斜視透視図である。

40

【0020】

図 1 及び図 2 に示すように、本考案に係る折畳み式食品用エコ容器は、中空のプラスチック製容器であり、両側に設けられる 2 つの側部薄片状部材 (10) と、下部に設けられる下部薄片状部材 (20) と、前部に設けられる前部厚片状部材 (30) と、後部に設けられる後部厚片状部材 (40) と、上部に設けられる上部厚片状部材 (50) とから構成される。

【0021】

前記上部厚片状部材 (50) に開口を有する注ぎ口 (60) が設けられ、該注ぎ口 (6

50

0)に、該注ぎ口(60)を密閉するためのキャップ(65)が取り付けられ、また、前記前部厚片状部材(30)、後部厚片状部材(40)及び上部厚片状部材(50)は硬質プラスチック製であると共に、前記側部薄片状部材(10)及び下部薄片状部材(20)は薄膜状を呈するものであり、該薄膜状を呈する側部薄片状部材(10)及び下部薄片状部材(20)を支えるために、本考案の実施例においては、該側部薄片状部材(10)にX字形の側部補強部材(70)が設けられると共に、該下部薄片状部材(20)に、中央に左右方向へ伸びる下部切欠き(751)を有する下部補強部材(75)が設けられ、前記上部厚片状部材(50)に左右方向へ伸びる上部切欠き(51)が形成される。更に、本実施例において、前記下部切欠き(751)は、下部補強部材(75)の上面に形成されると共に、前記上部切欠き(51)は、上部厚片状部材(50)の上面に形成されるが、該下部切欠き(751)を下部補強部材(75)の下面に形成させると共に、前記上部切欠き(51)を上部厚片状部材(50)の下面に形成させてもよい。

また、前記2つの側部薄片状部材(10)には夫々1つの側部補強部材(70)が設けられ、該側部補強部材(70)に上下方向へ伸びる側部切欠き(71)が形成される。

【0022】

図4に示すように、この構成によれば、本考案を折畳む時、単に注ぎ口(60)のキャップ(65)を外し、両側の側部薄片状部材(10)及び側部補強部材(70)を共に内部へ折り曲げ、それと同時に、下部薄片状部材(20)及び下部補強部材(75)を共に上方へ折り曲げて、上部厚片状部材(50)を上方へ山折りにするだけで、簡単に本考案に係る折畳み式食品用エコ容器を折畳むことができる。

【0023】

図1及び図3に示すように、本考案の実施例においては、上部厚片状部材(50)を円弧状とし、前記注ぎ口(60)を前記上部厚片状部材(50)の最高点よりやや低い箇所に位置させることにより、液体を注ぎ易く、且つなるべく大量の飲み物を容器に充填できるようにしている。

また、前記注ぎ口(60)は、前記上部厚片状部材(50)に設置される、伸縮可能な蛇腹部(61)を有する下段と、内側に開口(符号なし)が形成されると共に、外周にねじ山部(62)が設けられ、そのねじ山部(62)に螺合されるキャップ(65)を含む上段とを備えるものである。このような構造であるから、本考案の容器には、前記注ぎ口(60)の開口まで液体を充填できる。また、液体を飲用する時には、前記蛇腹部を上方へ引き伸ばし、液面を前記開口より低くすれば、容易に且つ零さずに注ぐことができる。

【0024】

図1乃至図4に示すように、本考案は大容量の容器として使用してもよいが、小容量の容器として使用しても構わない。また、図5及び図6に示すように、本考案における小容量容器は、両側に設けられる2つの側部薄片状部材(10A)と、下部に設けられえる下部薄片状部材(20A)と、前部に設けられる前部厚片状部材(30A)と、後部に設けられる後部厚片状部材(40A)と、上部に設けられる上部厚片状部材(50A)とから構成される。

前記上部厚片状部材(50A)に開口(符号なし)を備える注ぎ口(80)が設けられ、該上部厚片状部材(50A)に左右方向へ伸びる上部切欠き(51A)が設けられる。尚、本実施形態は容積が小さいので、前記下部薄片状部材(20A)にX字形の下部補強部材(75A)を設けると共に、該下部補強部材(75A)に、下部補強部材(75A)を折曲するための下部切欠き(符号なし)が設けられる。

【産業上の利用可能性】

【0025】

本考案は上記の構成を有するので、上部厚片状部材及び下部薄片状部材に設けられた下部補強部材には夫々、該上部厚片状部材及び下部補強部材を折曲するための、上部切欠き及び下部切欠きが設けられていることから、該下部補強部材を上方へ山折りし、該前部厚片状部材及び後部厚片状部材を互いに内側へ接近させるように押し込めば、簡単に折畳んで廃棄することができる。

10

20

30

40

50

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図1】本考案に係る折畳み式食品用エコ容器の斜視透視図である。

【図2】本考案に係る折畳み式食品用エコ容器の他の斜視透視図である。

【図3】考案に係る折畳み式食品用エコ容器における注ぎ口の部分拡大側面断面図である。

【図4】本考案に係る折畳み式食品用エコ容器を折畳んだ状態を示す斜視図である。

【図5】本考案に係る折畳み式食品用エコ容器の他の実施例の斜視透視図である。

【図6】本考案に係る折畳み式食品用エコ容器の更に他の実施例の斜視透視図である。

【符号の説明】

10

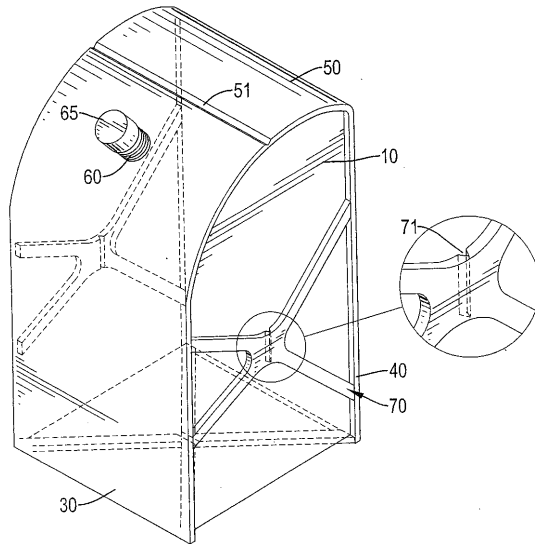
【0027】

10	側部薄片状部材
10A	側部薄片状部材
20	下部薄片状部材
20A	下部薄片状部材
30	前部厚片状部材
30A	前部厚片状部材
40	後部厚片状部材
40A	後部厚片状部材
50	上部厚片状部材
50A	上部厚片状部材
51	上部切欠き
51A	上部切欠き
60	注ぎ口
61	蛇腹部
62	ねじ山部
65	キャップ
70	側部補強部材
71	側部切欠き
75	下部補強部材
751	下部切欠き
75A	下部補強部材
80	注ぎ口

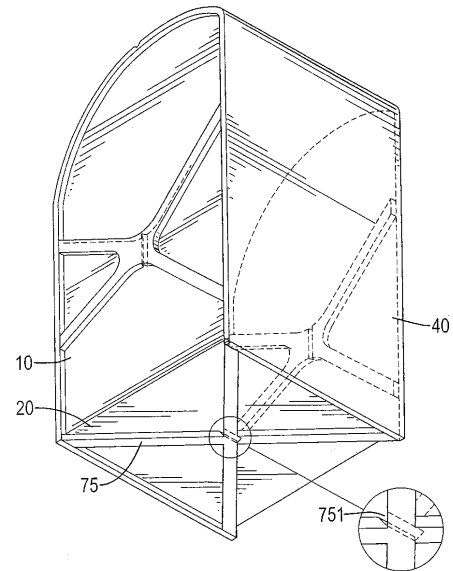
20

30

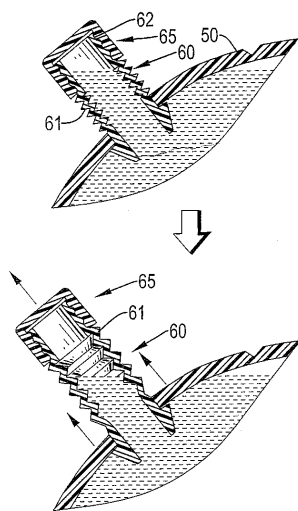
【図 1】



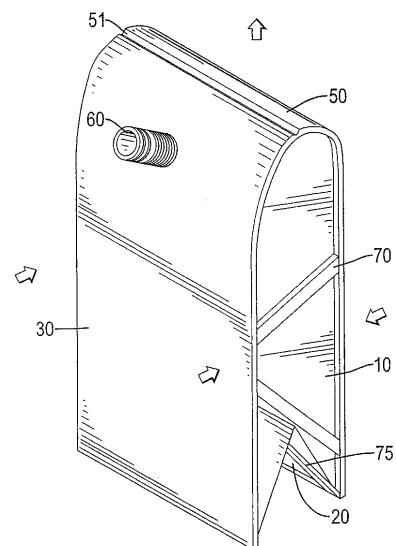
【図 2】



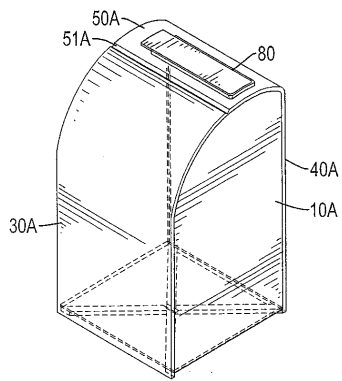
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

